

新たな富山県水産業振興計画(令和6年度～令和13年度)の概要

基本 目標

多様な水産資源が持続的に利用され、「富山のさかな」のブランド力を活かした水産業の成長産業化と、漁村・漁港の魅力向上、活性化により、漁業経営が安定していること。

本県水産業の 主な情勢の変化や課題	主要な取組み(新規・拡充など)	KPI 現状→令和13年度	
(1)豊かな富山湾を次世代につなぐ新たな資源管理の実施			
<ul style="list-style-type: none"> ① 海水温上昇等の気候変動 ② 漁業法の改正への対応 ③ 漁獲量変動の増大 ④ 漁業者所得の安定化 ⑤ サケ資源の減少、内水面漁協の担い手減少 	<ul style="list-style-type: none"> ① 水産研究所の資源調査能力・調査船体制の維持・向上、漁況予報等の情報の漁業関係者への積極的な提供 ② TAC(漁獲可能量)管理の実施、定置漁法を踏まえた国への働きかけ、資源管理協定による自主的管理の推進 ③ キジハタの栽培漁業の事業化(令和8年度を目途)、アカムツの種苗生産技術の開発研究の推進 ④ 富山湾に適した魚類養殖、海藻やイワガキなど磯根類養殖の推進、養殖技術の指導、種苗提供体制の構築 ⑤ サケ稚魚生産体制の協業化と将来の増殖体制の在り方検討、内水面漁協の収益確保のため、自主放流への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ① 漁業関係者等への情報提供数 ② 資源管理協定の対象魚種数 ③ 種苗生産対象魚種数 ④ 富山県の養殖生産量(海面+陸上海水) ⑤ 主要4魚種漁場における自主放流を実施した漁場数 	<ul style="list-style-type: none"> 86件→100件 26魚種 → 30魚種 4魚種 → 6魚種 20トン → 30トン 22/42 → 30/42
(2)「富山のさかな」のブランド力を活かした水産業の成長産業化			
<ul style="list-style-type: none"> ① 衛生管理意識の高まり ② 消費者ニーズの変化 ③ 全国的に認知された「富山のさかな」のブランド力 ④ 魚種変化、水産加工業の経営体力・従業員不足 	<ul style="list-style-type: none"> ① 漁協等の高度衛生管理型の荷さばき施設や冷凍冷蔵施設の整備支援、衛生管理意識の醸成 ② 急速冷凍機器の整備支援、コールドチェーンを想定した体制づくりの推進、水産エコラベル認証取得の推進 ③ 「寿司といえば、富山」と連携した取り組み、生産者と実需者のマッチング、食材プロモーションの展開、地産地消・魚食普及の推進、海外のプロモーションなど輸出拡大できる環境づくりの充実 ④ 水産加工業者のワンストップ窓口の設置、商品化のトータルな支援、シイラなど低利用魚の新たな商品開発支援 	<ul style="list-style-type: none"> ① 高度衛生管理型共同利用施設の整備数 ② エコラベル認証取得数 ③ 「とやまの食材プロモーション事業」での商談会・フェア等実施数 ④ 県産水産物・水産加工品の輸出金額 ⑤ 水産加工業者に対する相談支援件数 	<ul style="list-style-type: none"> 1施設 → 4施設 1件 → 3件 9回 → 15回 7.8億円 → 15.0億円 15件 → 25件
(3)漁村・漁港の魅力向上と活性化			
<ul style="list-style-type: none"> ① 国の「海業」の推進 ② 漁港・漁港海岸の老朽化 ③ 漁業の担い手の減少 ④ 藻場など漁場の環境変化 	<ul style="list-style-type: none"> ① インバウンドの観光需要の取込、街並み景観など漁村の魅力を活用した海業の推進、地域の海業ビジョンの策定 ② 漁船の大型化への対応など漁港や漁港海岸の機能強化、予防保全型の対策等による長寿命化 ③ 県内漁業の魅力発信、漁業担い手センターの漁業体験や就業相談等の機会の充実、県栽培漁業センターの活用 ④ 海藻種苗の移植やウニの駆除等による藻場の保全、海洋プラスチックごみ対策、海底耕耘等の漁場改良支援 	<ul style="list-style-type: none"> ① 新たな海業の取組件数 ② 県営漁港施設の長寿命化にかかる修繕工事の着手割合 ③ 新規漁業就業者数 ④ 富山湾の藻場面積 	<ul style="list-style-type: none"> — → 10件 39% → 80% 37人/年 → 40人/年 1,173ha → 現状維持
(4)本県水産業の持続的な発展に資する横断的な取組み			
<ul style="list-style-type: none"> ① デジタル技術の進歩 ② 2050年カーボンニュートラル実現 	<ul style="list-style-type: none"> ① 県立大学DX教育研究センターと連携した漁獲予測技術の研究・開発、漁業の効率化などスマート化を伴走支援 ② ブルーカーボン・クレジット制度の利用促進、漁業の省力・省コスト化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ① ICT機器を導入した海面漁協割合 ② ブルーカーボン・クレジットの申請件数 	<ul style="list-style-type: none"> 33% → 100% 0件 → 5件
(5)令和6年能登半島震災からの復興			
<ul style="list-style-type: none"> ① 漁港施設の被災 ② 漁協・漁業者の負担増 ③ 漁場環境の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ① 被災した漁港施設の計画的な工事発注、漁業活動との調整による早期復旧 ② 水産共同利用施設、漁具、漁船の早期復旧のための支援の充実、被災漁業者の復旧に必要な金融支援 ③ 漁獲が減少した魚種の漁場環境や資源に関する調査の実施、漂流・漂着物の処理や海底地形の調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ① 漁港の復旧割合 ② 共同利用施設等の復旧割合 	<ul style="list-style-type: none"> — → 100% — → 100%